

第21回APCTP日本委員会会合議事録（案）

日時：2023年3月31日（水）14:00～15:00

会場：<https://us06web.zoom.us/j/83170620471>（Web会議）

出席者（順不同、敬称略）：

河本昇（北海道大学、委員長）、保坂淳（阪大RCNP）、橋本幸士（阪大理）、木村真明（理研仁科センター）、宇田川将文（学習院大）、磯暁（KEK）、村上修一（東工大）、青木慎也（京大基研）、原田知広（立教大学）、求幸年（東大工）、大西 明（基研）、多田司（理研、事務局）

オブザーバー（順不同、敬称略）：杉本茂樹（京大理、次期委員）、大向一行（東北大学、次期委員）、田中貴浩（京大理、前General Council）

欠席者（順不同、敬称略）：菅原寛孝（KEK）、九後汰一郎（京都産業大学）、藤川和男（理研）、押川 正毅（東大物性研）、横山順一（東大ビッグバン宇宙国際研究センター）、原田正康（名大）、犬塚修一郎（名大理）

会合冒頭で出席者の自己紹介が行われた。

1. 前回議事録承認

前回会合である第20回議事録が確認され承認された。

2. General Council報告

第24回General Councilについて出席した磯委員から報告があった。APCTPの2022年の活動、2023年の予算、Associate Fellow ProgramやAPCTPコロキウムと言った活動予定について紹介された。特に日本人のJunior Research Group Leaderの状況について言及された。またYoung Scientist Training Program (YST)の公募があり、General CouncilメンバーはAPCTPに候補者を推薦することができるため、適任者がいればGeneral Councilメンバーに連絡するように呼びかけられた。またCNYang賞の推薦についての紹介が行われ、日本物理学会等を通じての推薦に関しても意見が交換された。またメンバーシップ費についても議論があったことが紹介された。

3. APCTP理事会報告

第39回および第40回理事会の報告がAPCTP理事会の議長である河本委員長より行われた。第39回理事会では、任期末を迎える所長ならび理事、理事長についての選出がり、それぞれ現所長のYunkyung Bang所長が選出、日本からの理事として河本委員長、監事としてKEKの丹生氏が日本委員会からの推薦に基づき選出、また理事による選挙で現理事長の河本理事長が選出されたことが報告された。一部の参加国について参加費の免除または半額免除が決議されたことが報告された。また日本人JRG グループリーダーのひとりである花井亮氏が京大基研に移るにあたり、特にAPCTP側からの強い希望でAPCTPとの併任となったことが紹介された。

第40回の理事会では、インドネシアのメンバー国加入が承認されたこと、これまで参加費を払っていない国等のメンバーシップフィーを2,000ドルに減額することが決議されたこと

が報告された。また河本委員長から次のようなAPCTPの構造的な問題点と理事会の認識が示された。APCTPの存続のためには毎年韓国政府に予算申請をする必要があり、所長の業務の大きな部分をしめている。このため所長を韓国人が務めるか、あるいは韓国人事務局長が外国人所長と並び立つ必要があり、運営上の制約になっている。理事会の決定はそのような事情を踏まえたものになっている。

4. 来年度の委員について

任期満了を迎える委員の後任の次期委員について、理論天文学宇宙物理学懇談会より大向一行氏(東北大学)、物性グループより柳瀬陽一氏(京大理)、素粒子論サブグループより杉本茂樹氏(京大理)がそれぞれ推薦されたこと、原子核サブグループより原田正康委員(名古屋大学)の再任の連絡があったことが事務局より報告された。

5. メンバーシップフィーについて

メンバーシップフィーについて2022年度分のAPCTPへの送金がKEKより行われ、KEKあての分担金の支払いが完了したこと、2023年度の分の請求書がKEKに到着しており、5月以降にAPCTPへの送金、分担金の各研究機関へ請求を行う予定であることが事務局より報告された。

6. Young Scientist Training Program (YST)募集について

Young Scientist Training Program (YST)の募集について紹介され、あらためて適任者がいればGeneral Councilメンバーを通じて推薦することができることが紹介された。

2023年9月15日

メール審議

2023年9月15日付け河本委員長よりのメールにて以下の件が委員に諮られ、異議なく承認された。

- 1, APCTPがSimons FoundationのTargeted Grants to Instituteに応募するにあたり、応募をサポートする文書を多田より示された文案通りAPCTP日本委員会名で出すこと
- 2, 文書の署名者として多田を委員長代行として指名する

以上